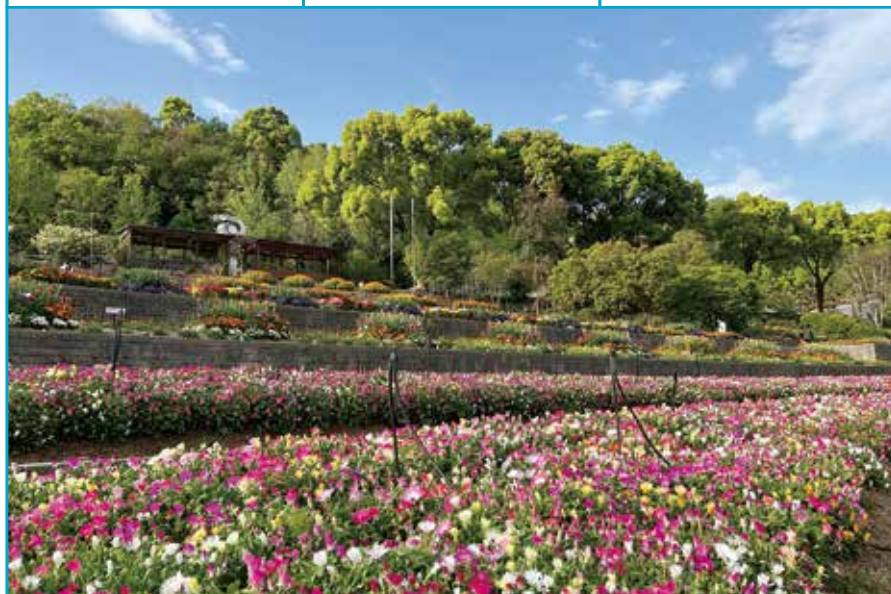


WIN CONCORD
WIN コンコード

NEWSLETTER

2023
vol.33



日本での生活から 25 年

ズルフィカル（マレーシア）

私が初めて日本に来たのは 20 才の時でした。一緒に来た人達の殆どが、初めて日本に來ただけでなくマレーシアから出るのが初めてでした。1996 年 3 月に、私は初めて日本に来て、WIN コンコードの素晴らしい人達に出会いました。

あれから 25 年以上経ちました。2000 年の 4 月に和歌山大学を卒業し、働き始め、結婚し、今はスランゴールのシャーアラムに妻と 3 人の子供達、そして 2 匹の猫と住んでいます。この 25 年を振り返ると、成人してすぐの和歌山での経験がその後の人生を形成してきたと思います。

私の性格のカギになっている一つで、数年に亘り築きあげてきた事は、決断力、そして自分が与えられたタスクを責任を持ってこなす事です。これがアナリスト、マネージャー、政府に關係する会社のリーダー、そして今は世界一大きいサービス会社のパートナーと言う私のキャリアを作ってきたと思います。私のキャリアの成功をお祝いしてかけられた言葉に驚いたことがありました。この言葉、どこで聞いたんだっけ？と自分に問いました。よく考えると、中谷さんや WIN のメンバーに「フィカル君はしっかりしてますね。」と言われた事を思い出しました。その時は、意味がよく分かりませんでしたが、今現在、それが仕事、スポーツ、家族、そして人生の全てに向き合う大切な力になっています。

最近まで、私は日本に留学経験のあるマレー人の協会—Alumni Look East Policy Society、つまり ALEPS の会長をしていました。この協会には 15000 人以上の元留学生が在籍しています。2016 年から 2022 年まで協会を率いてきました。その



間、課題の一つは 20 代、30 代の若者層(会長になった時は、既に私は 40 才でした)の興味をどのように惹きつけるかと言う事でした。違う世代の人達は、それぞれに興味も優先順位も違います。そこで、私達はどの年代も共感出来るテーマを見つけなければなりませんでした。私達は、日本での時間を思い出し恩返しすると言うテーマを選びました。皆、日本の地元の方々や友人達に助けをもらい、それぞれの大学で留学生として素晴らしい経験をしていました。それらの素晴らしい思い出は、世代に関わらず誰もが共感できました。恩返しは難しい事かと思っていましたが、日本での経験を思い返す事によって、皆との関係が深まりました。

2022 年はマレーシアと日本にとって、とても重要な年でもありました。LEP (Look East Policy) プログラムが 40 周年を迎えたからです。このプログラムは当時のマハティール首相が私達が日本に留学できると発表したものでした。「私達は何を学んできたのか?」「これからどうするのか?」と言う 2 つの質問が、この年を通して一番多く聞かれました。元留学生の会長として、私は徳仁天皇陛下、安倍晋三元首相(最後の海外訪問がマレーシアだったと後に知らされます)そして多くの方々にお会いする機会を与えていただきました。それは私達がマレーシアの日本大使館や日本人のコミュニティーの方々と、両国の発展のために良い関係を築いてきたからだと思います。そして今後もマレーシアと日本の関係は更に良くなると信じています。

それでは、真面目な話はもう充分ですね。私がどうしてたかって? 日本の多くの友人達は、私がサッカー狂いなのは知ってますよね。余暇があれば、サッカーをしたり観たりしていました。嬉しい事に、それは今も変わっていません。有難いこ

とに健康で、友人達と定期的にサッカーをしたり、時間の許す限りお気に入りのチーム、ヨーロッパのリヴァプール FC の試合を観に行ったりしています。一番最近では、妻とカタールに FIFA ワールドカップを観に行きました。素晴らしい経験になりました。

今も活発に運動しています。妻と数年に亘りマラソンを続けていて、2018 年の大阪マラソンにも出場しました。それ以来、トライアスロンも始めました。2022 年、私達は初めてランカウイのイベントに参加しました。驚くことに、大勢の日本人も参加していました。日本でトライアスロンが人気だと知りませんでした。もしかすると、いつか日本のトライアスロンのイベントに参加するかも知れません。

私の家族は旅行が大好きです。子供達は、世界各地(日本にも数回)に旅をする機会を持てて幸せだと思います。毎回、休暇の旅先を決める時に出てくるのは日本です。最後に和歌山に行ったのは 2013 年です。そろそろ和歌山に帰らないと…と考えています。多分 2023 年には…? 私達をまだ覚えていてくれる人達がいて、その人達に会えることを願っています。

2023 年、皆さんにとって素晴らしい年でありますように。コロナ禍で色々大変でしたが、マレーシアでも緩和されつつありますし、日本も同様だと思います。皆一緒に、この世の中を良くしていきましょう。お身体に気を付けて、そしてこれからも連絡を取り合いましょう！

和歌山(1996 年から永遠に…😊)

丹生都比売神社初詣体験

童 倩妮 (中国)

12 月 31 日から 1 月 3 日までの四日間、私たち日本語日本文化研修生 7 人が丹生都比売(にうつひめ)神社で神様のお手伝いをした。神社を参拝したことはあるが、神社のお手伝いをするのは初めてだから行く電車ですごくドキドキした。一体どんなことを体験できるのかを楽しみにしていた。

31 日の午後 1 時ごろ宿舎に到着した。ひと休みのあと、事前説明のため神社に向かった。神社に行くのに 10 分ほどかかった。そんなに長くないが、道沿いの畑、一片の雲もない青空、澄んだ空気などが私の心を安らかにした。事前説明を聞き終えたのはまだ午後 4 時くらいだ。本番は夜 11 時



半から始めるので、まだ余裕がある私たちは年越の大祓式を見学した。宮司さんによると、この儀式は日本全国の神社が同日で行われ、半年の罪穢れを祓い、無病息災を願う神事だそうだ。宮司さんは前で祈りの文を読みながら、竹の葉を振った。私たちは後ろで静かに聞いていた。儀式の最後は紙きれをまず自分の肩の後に投げて、次は残りの分を頭の上に持ち上げて捨てる。それで、身の汚れと不幸が払われるらしい。

そして、11 時半になって、私たちは 2 人と 3 人組に分けられて、各自の位置にスタンバイした。31 日の夜と 1 日は私とセシリアが参拝客の帰り道の方で挨拶したり、道の案内をしたりするお手伝いだ。12 時に近づくと共に、参拝客もどんどん増えた。丹生都比売神社が都市の中にあるのではないが、31 日の夜にお参りに来たお客も少なくない。日本に来る前に聞いた話で、お正月は日本人みんな家族や友たちと一緒に参拝するのが本当だったと思っている時、あるおばあちゃんに話かけられた。「あのう、お手洗いはどこですか」と、私は緊張しすぎたせいか、オリエンテーションで何回も確認した道を口に出せなくなった。幸い隣のセシリアがすぐに駐車場のお手洗いへの道を教えた。ペラペラ道を教えているセシリアを見て、私も負けないように頑張らなきゃと思った。そして、次の時間は道を案内する以外に参拝客さんたちに「あけましておめでとうございます」と挨拶した。簡単な一言だが、参拝に来た人々は例外なく私たちに微笑んで、お返事の言葉を返してきた。時々親切なお客さんから「寒いでしょう」とか「頑張ってください」とかという温かい挨拶をされる。皆がよい年を迎えるように強くお願いするところを見て、私は何となく力が入ってきて、いつの間にか寒さも消えてしまった。

そして、1 日になった。この日は参拝客に挨拶

することだけではなく、ストーブの灯油を補充するのも私たちの仕事だ。室外に設置されたストーブはもちろん、室内のも補充しなければならない。総計 15 台のストーブがある。スタッフの方がどうやって灯油を入れるのかを説明してから、この大事な任務を私たちに任せた。自分の体力と力には十分な自信をもっているが、やはり実際にやってみたら自分の限界に気付いた。こんなに重いポリ容器を以前スタッフの方が一人でもって 15 台のストーブを一つひとつ補充するのは大変だったと思い同時にスタッフの方を尊敬し始めた。しかし、灯油を入れた後、巫女さんやスタッフさんに「ありがとうございます。助かりました」とすごく感謝された。皆が暖かくなれるなら自分は少し疲れがたまってもやりがいがあると思いながら、灯油をドンドン補充し続けた。頑張って仕事をしたら、時間がいつの間にか過ぎた。宿舎に帰ったら、宮司さんの奥さんが熱くておいしいカレースープを作り終わって、私たちを待っていてくれた。台所でスープを盛る奥さんの姿が遠い母国にいる母の姿に重なって、気づいたら目が潤んでいた。誰かが料理を作って、自分が食べに行くことを待っているのは母以外、奥さんが初めてだから。口に入れたカレースープが体だけではなく、心も温めた。

2 日には私が一番楽しみにしていた巫女衣装を着られる日だ。この日は私とセシリアが巫女衣装を着て、拝殿の前で参拝客たちに挨拶する予定だ。少し薄いが、昔アニメで見たことのある白と赤の袴を今わたしが着ているなんてまるで夢のようだった。この衣装に恥をかかせないため、私は一生懸命お辞儀しながら、「よくお参りくださいました」と参拝者たちに挨拶した。頑張りすぎたせいか、背中が少しゆるくなってしまった。それに気付いた日本人の巫女さんは私に手を振り、部屋に入らせ、衣装を着せなおしてくれた。「これでよし。これからも一緒に頑張ろう」と彼女は私を励ました。助けてもらった私はさらにやる気が入って、衣装を乱さないようにお辞儀した。そこで突然気付いたのは家族と一緒に来る参拝者は多いが、犬と一緒に来る人も少なくない。犬を大事に抱っこして、他の人に迷惑が掛からないように参拝するという日本人のやさしさに感動した。

そして、最後の日が来た。3 日の仕事は身体が不自由なお客さんを助けることだ。最初来たのは 4 人家族だ。その小さい妹さんが車椅子にすわっていて、不安そうな顔で周りを警戒していた。そこで、お姉さんは妹の震えている手を優しく握り

ながら、おでことおでこをくっつけていた。しばらくすると、その妹が静かになっていた。私はその家族の道案内をして、順調に参拝も終わった。車椅子を車に乗せることに小学生のお姉さんは慣れていて、お父さんの手伝いをした。お礼を言った後、その家族は車に乗って帰った。私はただボーっとして、彼らを見送った。自分も元の立ち位置に帰ろうとした時、涙がこぼれてしまった。日本人はお正月には必ず家族全員で神社に行って、「新しい一年がいい年になるように」と祈る言葉の重さを再認識した。やはりどこの国の人でも家族はこの世で一番大事な存在だ。例えば普通の人と少し違いがあるとしても、家族は家族でありそのことはずっと変わらない。

あっという間に 3 日間が過ぎた。この間私は日本のお正月文化や神社の文化だけではなく、日本人の家族感も勉強した。宮司さんと神社のスタッフさんと一緒に働いた巫女さん、そしてこの機会を紹介してくれた WIN コンコードさんにお礼を言いたい。本当にありがとうございました。

和歌祭りの感想

タム (ベトナム)



和歌祭りは、長い歴史の間、和歌山市に住んでいる人々から愛されてきたお祭りである。その祭りに参加することは、和歌山の伝統と暮らしに触れることができる素晴らしい機会でもある。和歌山県の大きな祭りのひとつが和歌祭りであり、この祭りの主要な行事はコロナ禍において 2020 年より縮小して開催が続いていたが、2022 年は通常通りの形で実施された。100 年以上続いていた歴史の重みを感じ、深く感動する行事だった。和歌山県に来て、このような大きな名高い大きな祭りに

参加できるとなると浮かれ気分だった。この和歌祭りについて下調べをすればするほど面白いことが分かってきた。それは400年前に徳川家康の子、頼宣が、父家康を祭神としてまつる東照宮を建立し、家康忌日の5月17日に初めての例大祭が行われた。

祭りとしては、108段の石段を「御神みこし」をかついでかけおりの様子は勇ましく、見ごたえがある。又、「渡御行列」は60種目あまりに及ぶかなりの行列で、昔は日本三大祭と評されるほどであった。

祭り当日は天候も良く、私にとって初めての経験だったので、思ったことをうまく言葉に出来ないが、とても楽しく参加させて頂いた。和歌祭りに参加するため、集合場所に着くと、多種の昔の衣装を着ている人々、踊りや歌を歌っている人たちがいて、まるで古代に戻った感じがした。同時に昔の和歌山の人たちはみんなこのように祭りを楽しんできたのだらうと思った。私は外国人で、和歌祭りの登場人物、踊り、歌などのことはあまりわからなかったが、その場にいるみんなとは同じ仲間のように感じられた。その上、巡行に参加している方の浴衣やハッピーのデザインは、グループによって違い、見比べるのも面白かった。それぞれ違う年齢、職業、地位の人たちもこの祭りでは一緒に楽しむ同じ仲間として一体感を感じているのだらうと思う。

述べ3時間半も立ちっぱなしでいたためさすがに足が疲れたが、雰囲気と服の美しさと迫力に魅了され、長いとは感じなかった。一度は来てほしい祭りである。また機会をみつけて、ぜひ見に行きたいと、心から応援した。とても良い思い出になった。

那智への一日

銭 琪佳（中国）

朝7時30分、まるで前日の大雨が嘘だったように空が晴れ渡って、空気も澄んでいました。まだ少し早い時間でしたが、私たちは那智の滝へ向かって出発しました。

これは思ったより長く、しかし決して退屈でない旅でした。WINコンコードの方が和歌山や那智について詳しく紹介してくれて、私たちはそれを聞きながら海岸沿いを移動しました。途中で志原海岸と橋杭岩で降りて少し休憩をとり、美しい海

の景色を楽しみました。日本に来る前に、住んでいた地域は海から少し遠いため、私はあまり海を見る機会がありませんでした。実際に自分の目で見ると、波が押し寄せてきて、向こうに海がずっと遠いところに伸びて青い空と繋がっていきしました。それを見て感動しすぎて、自分の貧弱な語彙の中から褒める一言さえ見つけることができませんでした。

12時以降、おいしい昼ごはんを食べてしばらくして、ようやく楽しみにしていた世界遺産である那智の滝に到着しました。遠くから滝に近づくとすぐ周りが涼くなったことに気づき、美味しく爽やかな空気を感じました。恐らく前日雨が降ったおかげで、写真を撮ろうとする時、運よく、白糸のように清らかな滝の上で、一瞬きれいな虹が現れました。私はこの幸運にはしゃいで、嬉しくてならなかったです。

その後、熊野那智大社と熊野本宮大社へも行きました。前者は主に明るい赤色と金色で、そこにお参りに来た人も多く、賑わっているイメージを私に与えました。それに対して、後者に着いたのはすでに夕方になり、人々がそこから去って行ったので静かになってきました。渋い色調の神社を見て穏やかな雰囲気を感じ、つい息を凝らして心まで静寂になったような気がしました。

帰るときにもう日が暮れてしまいました。私たちは疲れ気味で少しずつ静かになり、眠りにつき始めていました。しかし、この一日で感じた楽しさはずっと心に響いているでしょう。

こんなに楽しい旅できたのは全てWINコンコードの皆さんのおかげだと思います。長い時間車を運転して連れて行ってくれたり、様々な紹介を詳しくしてくれたりして、私が車に酔ったときには大変気を遣ってくれました。感謝で胸がいっぱいになりました。

本当にありがとうございました。



旅から得た心の贈り物

ルタ（インド）

日本に初めて来たのは 18 歳の時、初めての海外一人旅であった。2 週間という短い期間で旅行することにし、残念ながら、神戸、大阪、東京の大都市以外を訪れなかった。当時、私は若すぎ、ほとんどの大都市が似ていることをまだ気づいていなかった。その後信州大学の交換留学生だった妹（私のスポンサー）のおかげで小さな町松本（長野県）に行ってきた。そこでハイキングに行ったり、味噌造りを見学したり、幼稚園の環境を体験したりした。やはりすべてが勉強になった：うどん屋さんで何時間もかけて、隣に座っていた女の子からお箸の使い方を見習うこと、自分のトラブルや質問を外国語で伝えること、他の外国人と交流することなど。

その旅の後、何年経っても思い出に残っていることを 1 つだけあげるとしたら、それは日本人の優しさと態度である。上高地のある森で帰り道が分からなかった時、一緒に連れていってくれたおじいさん、野球の試合のチケットと野球のお土産を贈ってくれた創価大学のコーチ、仕事で疲れていたにもかかわらず、大阪で自転車を見つけるのに約 20 分も手伝ってくれたあるサラリーマンのことなど決して忘れられない位印象的であった。短期間に色んな経験、間違いに気付いたが、今振り返ってみると、多くのことを逃したように感じる。日本の楽しい思い出が私のモチベーションを高めてくれ、「日本に長い間滞在したい」という夢を実現するのに、ちょうど 6 年間かかった。その間に、日本の行きたい場所、そこで食べたいもの、体験したいことをまとめ始めた。今それを参考として、私は旅行の計画を立てている。

10 代から 20 代にかけて、私の世界観は少しだけ変わった。物よりも人や経験を大切にしている。名古屋で多忙な一日を過ごした後、私は高山（岐阜県）に逃げることに決め、その小さな街に何日も泊まった。美しい山々に囲まれ、雪に覆われた風景で満足感が得られた。合掌造りで有名な白川郷への日帰り旅行を除き、街のほとんどを徒歩で回った。高山は私が朝 5 時まで見ず知らずの人と話していた場所であり、温かく迎えてくれた 2 人の日本人が経営しているメキシコ料理のレストランに通った場所でもある。

土地の人との会話がスムーズにできるようにな



ったことで、地元の人々の生活や経験についてもっと学べ、日本旅行の楽しみが倍増したことを実感した。鎌倉で宿泊していたゲストハウスで、オーナーのマサさんとナツキさんとハウスに戻った後で、一日のことを話した。「いってらっしゃい」と「お帰り」と挨拶してくれ、家族と一緒に住んでいるような感じがした。旅行が終わる頃には、鎌倉とそのゲストハウスにとっても愛着を持っており、美しいビーチとハイキング スポットのある街を離れ東京に戻りたくなかった。さらに感動させたのは、マサさんが私を本当にくつろげるように作ってくれたチャイ（インドのお茶）のことである。この温かい人と別れる時、涙をこらえようとしていた。

春休みのこの 2 週間の旅行で、金沢の美味しい魚と美しい金箔、富山の雨晴海岸、新潟の北アルプス、東京のめまぐるしい生活、中華料理と麺好きの街横浜を味わってきた。各地はきれいだったが、特にお気に入りの 鎌倉と畑と竹林に囲まれている友達の仲町台の家に行きたい。

基本的に一人旅が好きで、途中で人に会うのが好きである。自分とは違う興味を持つ人々に会った。一人だったら、藤子不二雄美術館（ドラえものの漫画家）にも、ジャズクラブにも、長谷寺にもきつと行かなかった。これらの経験を共有したおかげで、一緒に行った人々と少し親密になり、そこから新しい興味が湧いてきた。新しい料理や郷土料理を試すことを考えるだけでわくわくするが、たまにはシンプルなフライドポテトが必要だと改めて気づいた。日本の様々な都市を探索することで、「インドでももっと旅行したいなあ」という衝動に駆られた。

言うまでもなく、数えきれない経験をくれた日本語に心を込め感謝しており、これからも全力で頑張るつもりです。

トルコのおもてなし

メリサ（トルコ）



アナトリアは歴史を通じて多くの文明に遭遇してきており、これらの文明に影響を受けてきた。アナトリアが東洋と西洋の岐路にあるという事実は、アナトリアでさまざまな伝統的、および文化的儀式を見ることを可能にした。この状況は、ホスピタリティの文化に大きく影響していた。

トルコの国家構造、キャラバンサライ、旅館、風呂、古い家屋の客室に見られるシステムは、トルコ人のおもてなしを示している。客は常に可能な限り最高の方法で歓迎され、楽しめるように努められてきている。トルコのイスラム教信者では、客に重要性が与えられ、糧と祝福を持って来るのだと思われている。

ホスピタリティは非常に古い概念である。客とは、突然到着し、ホストに歓迎される人のことであり客への敬意と寛容は、トルコの民俗文化の重要な価値の1つである。敬意、歓迎、別れ、寛容は、ゲストとホストの関係において重要である。トルコの民俗文化におけるおもてなしは、社会によって考慮される基本的な価値の1つである。客が快適に過ごせるようにあらゆる努力が払われ、おやつが提供され、見返りを求めずにサービスが提供される。ホスピタリティは、トルコ文化とイスラム教の重要な精神的価値の1つである。客は名誉を与えられ、捧げ物（食事など）において彼に対していかなる失敗をしないように努められる。おもてなしを重視するトルコ人のことわざや慣用句に、さまざまな言葉が存在することは、トルコの民俗文化においてその重要性を示すものである。さらに、トルコの民俗文化では、客は神聖なものに見なされており、おもてなしを提供し、客にサービスを提供することは報酬であると考えられている。この点で、トルコ語で「神のゲスト」というフレーズは、ゲストがどれほど神聖であり、

トルコ国民がどれだけ大切にしているかを示すという点で重要である。では客が来る予定の家で何が行われているか順番に見よう。

客が到着する少し前に、家の中は大騒ぎになる。「部屋を片付けて、靴下を履き替えて」次々に指示を出しながら母親は、満面の微笑みを浮かべる。服も着替え丁寧に客を迎える。各家にある客間は客が来た時だけ使われる部屋であり、普段は入ることができない。この部屋は自分たちが使っている部屋よりも大きくて、家具も上質のものである。ホストは客に何を飲みたいか尋ねない。お茶を出す場合は、ケーキとペストリーと一緒に出す。コーヒーを出す場合は、「コーヒーはどうやって飲みますか?」と尋ねる。御馳走に対する好みは一切受け付けない。もてなす側は、その日の食事がどんなものであれ、いっぱい食事を作る。嫁入り道具のショーケースから特別な食器を取り出し準備したバクラバなどのお菓子を出す。コーヒーの時間が終わったら、年長の方には丁寧な挨拶をし若い人たちには愛を伝え、ドアまで送り出す。

これは、トルコが親切な性格を持っていることを明確に示している。古いスタイルの家に客間があることは、トルコ人の家族は皆もてなしの心を持ち、ゲストをどれだけ気にかけているかを示すという点で重要である。ゲストは常にトルコ社会で尊敬されており、最高の方法で楽しませようと努めてきた。トルコ文化におけるホスピタリティは、玄関先での歓迎の仕方に表れている。親切な国であるトルコ人は、歴史を通じてゲストのために最も美しく豪華なテーブルを設けることを義務と考えてきた。



バクラバ

※アナトリア半島は、アジア大陸最西部で西アジアの一部をなす地域である。現在はトルコ共和国のアジア部分をなす。

新留学生紹介(2023 年)

範 曉萌 (中国)

私は山東師範大学日本語学部 2 年の範曉萌です。今年 19 歳で二年生です。私は楽観的で明るく、人を助けることが好きで仕事にまじめで責任感が強いです。そして、すぐに新しい環境に適応することができます。しかし、あまり活発ではなく緊張しやすいです。私は趣味がたくさんあって風景写真を撮るのが一番好きです。料理が好きで、一番得意な料理は水餃子です。いろいろな種類の餡の水餃子を包むことができます。また、歌を聴くこと、散歩すること、バレーボールをすること、箏を弾くことなども私の趣味です。

日本語に触れ始めてから、ずっと日本語の文化と言語に興味を持って、日本語の勉強に熱中しています。しばらくの間の日本語の学習を経て、私はすでに一定の日本語能力を備えています。

今回の交換留学プログラムに参加するのは、日本語のレベルを高めて、日本語でコミュニケーションする際の不足を補うためです。さらに、日本文化を学び、中日友好関係の促進のために力を尽くしたいと思います。和歌山大学は私の理想的な日本語勉強の場所です。この機会のおかげで日本語を勉強することができて、本当に嬉しいです。

留学中に、みんなと友達になって、様々な文化を知るように勉強したいと思います。暇なとき、日本の観光地に行ってみ学し、美しい風景を楽し

みながら見聞を増やしたいです。日本のさまざまな美食を味わうことで日本の食文化を体験したい、アルバイトを通じて人生の経験を増やして独特な人生経験を得たいと思います。そして有意義なイベントに参加して、コミュニケーション能力を高めたいです。

一生懸命勉強し、優秀な留学生になるように努力します。

ウルジーバット (モンゴル)

初めまして、ガントゥムルウルジーバットと申します。モンゴルの首都ウランバートルから参りました。今年から和歌山大学で経済学を学びます。自己紹介では、なぜ日本を好きになったかや趣味や性格を書きたいと思っています。

日本を好きになった理由はアニメです。一番好きなのはハンターX ハンターです。小学校のころからインターネットでアニメを見始めました。日本のアニメを見て育ちましたから日本に来るのが私の夢の一つでした。2007 年から 2016 年の間に出了たアニメは、ほぼ全部見たと思います。

今は私がユーチューブで討論を見るのが好きです。いろいろな考え方や立場の人たちが話したりするから、それを視聴するのが勉強になっています。最近、はユーチューブで 1956 年のアメリカでの高校生交換留学生在が偏見について討論するのを見ました。さまざまな視点でこの高校生たちが話すからとても面白かったので、他の人にもこれを見るのを勧めます。たくさんの討論を見た



おかげで歴史もある程度好きになってきました。

私の性格は心配しやすい人です。宿題を送る前には絶対何回も間違いがあるかどうかを確認します。しかも宿題を確認すればするほど小さなミスがあちこちに出てきます。

和歌山での生活を出来るだけ後悔しないように、いろんな人と出会ったり精一杯勉強したり旅行したりして過ごそうと考えています。よろしくお願いします。

厲 憶（中国）

はじめまして、レイオクと申します。中国の浙江師範大学の日本語学科の三年生です。

私の趣味は音楽と旅行で、いつも人生の異なる体験を挑戦したいです。小学校から大学まで、通学先がずっと家から近い私にとって、自分を鍛える機会はあまりありませんでした。だから日本に留学して、自分の自律能力と困難に直面して冷静に対応する能力をさらに鍛えたいです。

また、将来は日本語の先生になりたいと思っています。子どものお手本となる教師にとっては、日本語能力を身につけることは言うまでもなく、言葉そのものの背後にあるより深い文化を伝えることも大切です。また、日本現地で異なる日本文化や習慣を学び、日本文化の魅力を感じ、中日文化の違いを体得し、自分の視野を広げたいと思っています。もし先生になる機会があれば、私は自分の経験と結び付け、日本の文化を生き生きと学生たちに伝えたいと思っています。

和歌山大学でさまざまな活動に積極的に参加したく、さらに自分を磨き、留学生生活をより豊かに有意義にしたいと思っています。多くの外国人留学生と触れ合うことができれば、異文化の多様性の魅力を少しでも感じる事ができて、嬉しいと思います。今回の留学では、異なる文化を同等に見て、異なる観点を受け入れることができることも大切です。和歌山で皆さんと会うのを楽しみに待っています。

アミラ（マレーシア）

初めまして、マレーシアの新しい留学生、アミラです。出身はパハンですが、今セランゴールに住んでいます。兄弟は5人、私は3番目です。マレーシアの一番好きな食べ物はラクサです。辛いですが、好きです。日本に来たのは初めてなので、色々なことを体験したいと思います。Tiktokで日本は甘い食べ物があるということをよく見ました。日本のデザートが美味しそう～



日本に留学したのは特に何かきっかけがなくて、留学の生活がうまく行くかどうか分からないんです。マレーシアにいた時、一生懸命日本語を勉強していたのに、日本にいと全然違う、人と周りは。でも、先輩たちは優しくていっぱい教えてくれて助かりました。これから、多くのことを勉強しなければならない。特に日本の習慣です。頑張ります。

高校の時、アニメ以外、日本のことがあまりわかりませんでした。でも、ある日、私の高校が日本の習慣というフェスティバルを開催しました。いろいろな面白いブースがありました。一番面白かったことはソーラン節のダンスでした。踊り子がいっぱいの力を出して、とても良かったと思います。その日から、だんだん日本の習慣に関心を持って、もっと多くの日本のことを調べてきました。

初めて日本語を学んだごろ泣きたいほど難しかったと思います。でも、先生方に優しくて、小さいことも教えてもらったので、やっと日本語を話せるようになりました。完璧ではないですが、基本的なことがわかってきました。

これからよろしくお願いします。

フォン（ベトナム）

初めまして、私はビン フォンと申します。ベトナムからのホーチミン市師範大学日本語学部の4年生です。私は日本の文化に興味がありますので、日本語を勉強しています。私は子供の時、漫画やアニメやなどのような日本の文化が大好きですから、いつか日本に行けたらいいと思います。でも、私の今は日本のアニメ漫画だけではなく、日本での日本人の生活はどうか分かりたいです。

四月に交換プログラムで和歌山大学に留学できて私の光栄です。日本語を勉強するのは大事なことです。日本の文化と生活を体験するのも大切

だと思います。それに、私の趣味はゲームやアニメや料理等のような日本製をやることです。私はどんな大変な仕事でも辞めることはダメだと思いますので、それが私の長所です。私はどんな仕事でもやれるが、別に上手ではありません。それにしても、時間をかけて慣れたら上手になるかもしれません。

私は経験がなく、外国に行ったこともありませんので、4月に留学できる機会を大切にします。私は10年前と1年前の留学生から日本で留学を助けてくれる人たちがとても優しいと聞きました。今回、私は初めて一人で留学しますが、一生懸命頑張って、分からないことがたくさんありますからよろしくお願い致します。

ハン（ベトナム）

はじめまして。グエン トゥイ ハンと申します。ベトナムから来ました。ホーチミン市師範大学日本語学部の4年生です。きっかけは高校生のころ、日越の文化交流会に参加しました。素敵な着物などの伝統的衣装、よさこいなどの踊り、和菓子やタコ焼きなどの食べ物で、とても素晴らしかったです。日本にいつか行ってみたいと思うようになりました。それで、日本語の勉強を始めました。

私は、目標に向かって、こつこつ進むタイプです。熱心にしたことは日本語の読解の勉強です。読解が苦手だったので、大学3年までに小説、漫画やニュースなどを読めるようにすると目標を立てました。

また、毎日1時間はNHKでニュースを読み、2時間漢字を練習し、新しい単語をメモして勉強しました。3年間で2500以上のニュースを読めました。毎日努力すれば不可能であったことを可能にすると思うようになりました。

私の田舎はベトナム北部に位置するニンビンです。世界複合遺産に登録されている場所です。古都ホアルーには、宮殿や寺院、廟など当時に造られた歴史的建造物が多く残ります。また、きらめく川に沿って進むボートを漕ぎ、タムコックやチャンアンなどの洞窟、豊かな水田や雄大な田園風景を楽しむことをお勧めします。山や川に囲まれたニンビンでは、ヤギの肉を使った料理やコムチャイと呼ばれるおこげ料理が名物になっています。機会があれば、この素晴らしい所を紹介したいと思います。

どうぞよろしくお願い致します。



カーヴィヤ（インド）

はじめまして。私の名前はカーヴィヤ クルプで、ニックネームはククです。インドから来ました。南インドのケララ出身なのですが子供の時から中部のプネという町に両親と一緒に住んでいます。プネのTMV大学で3年間も終わって、この1年間和歌山大学で日研究生として日本語と日本文化を勉強します。

様々な言語を学ぶのが好きだったので高校を卒業した後の夏休みに日本語を趣味として学び始めました。だんだん興味を持つようになって、日本語だけではなく日本文化と日本の独特な特徴も気に入りました。その上、子供のころから日本のアニメを観てきたので日本という国にも興味がありました。それで日本語を専門にして進めよう決めました。

趣味といえば色々です。映画を観ること、音楽を聞くこと、踊ることなど。特に昔の映画と音楽が大好きです。音楽なら何でも好きですけど映画のジャンルでホラーとスリラーが一番好きです。時々寝られなくなりますが暗くした部屋に一人でそんな映画をみながらスナックとか食べるのは週の疲れをとるために最高だと思います。料理と旅行は最近の趣味です。

学生時代にドラムを叩くこととインドの伝統的な歌と踊りーカルナティックとバラタナティヤムを学んだことがありますが残念ながら途中でやめました。でも機会があればまた続けたいです。

この留学を通して一人暮らしのやり方、社会生活のやり方が身につくと思います。そして日本以外の国の学生との交流も心待ちにしています。日本にいる間勉強はもちろん、できるだけ日本文化を体験してみたいです。

日本とインドの外交関係がいいから勉強した知識を生かして将来両国の間の懸け橋になるように頑張ります。

イランのおもてなし文化

宮田 果奈

イランはどんな国だと思いますか。ペルシャ絨毯やモスクなどは有名ですが、イランの生活や文化を詳しく知っている人は少ないと思います。私は2023年1月にイランに行き、1か月間イランで過ごしました。そこではたくさんの驚きと感動があり、とても刺激的な毎日を過ごしました。これを読んでいる方々に私が経験したイランの魅力をお伝えしたいと思います。

私がイランに行くことになったきっかけは、大学2年生のときに留学生として和歌山大学に来了イラン人女性、ファテメとの出会いです。当時私は和歌山大学国際交流委員会 IEC というサークルの運営を行い、留学生の支援や交流をする活動を行っていました。ファテメが国費留学生として和歌山に来たときに、市役所での転入の手続きに同行し、それ以来一緒にご飯を食べたり、いろいろなところに遊びに行ったりしてとても仲良しになりました。ファテメは帰国後も何度もイランに来るように誘ってくれたので、大学を卒業する前にイランに行くことにしました。

イランは、少し昔の日本に似ている国だと思います。ファテメの家があるゴルガーンの街はたくさんの人々で賑わっていました。道に沿って小さいお店がたくさん並んでいて、人々は色々なお店を回って買いものをします。道路には車がたくさん走っていました。家は絨毯が敷かれていますので、靴を脱いで上がります。食事をする際は、ダイニングテーブルで食べることもあります。皆で食べるときは絨毯に座って食べます。ファテメの家にはこたつもありました。イランの生活文化は私にとってとても親しみやすいものでした。

一方で親切すぎるイラン人の性格には驚きました。毎日の食事はファテメの母が作ってくれました。服やスカーフはファテメがたくさん用意してくれており、洗濯も全てファテメが行ってくれました。さらにファテメは私のために1か月予定を空けて、ずっと私と一緒に過ごし、私の通訳もしてくれました。私はせめて料理や洗濯を手伝おうと思いましたが、いつも「お客さんだから、ゆっくりしてね」と言われ、手伝うことはできませんでした。これほどまでにおもてなしを受けて過ごすのは初めての経験だったので、とても驚きました。



私はファテメの家だけではなく、ファテメの友人や親戚など様々な人の家にも招待してもらいました。どの家でもまず初めに紅茶と果物やお茶菓子を出してくれます。ある家では、中学生の男の子が高級レストランのウェイターのように丁寧に食べ物をサーブしてくれたので、とても感心しました。紅茶を飲んだ後やご飯を食べた後は、必ずおかわりを勧めてくれます。驚いたことに、一度断ってももう一度勧めてくれます。さらにもう一度断っても再び勧められるので、私はいつも断ることができませんでした。実はイランでは何度もおかわりを勧めるのは礼儀の1つで、勧められる側も必ず少し遠慮するのだそうです。本当に要らない場合は何度も断り続けなければなりません。このようなイランならではの礼儀が見られる場面は他にもあります。例えば、狭い道やドアの前では先に通るように道を譲ってくれます。買い物をしているときなどには、椅子があると必ず座るように勧めてくれます。お会計のときには、店員さんがお代は結構ですと言ってくれます。これらも遠慮や社交辞令のようなもので、言われた側も相手を立てながら断るのがイランのマナーです。日本ではおもてなしという主接客業のサービスのことが想起されますが、イランでは日常のコミュニケーションの文化として人々の心に根付いていました。

イランで素敵なおもてなしをたくさん受けて、私はイランのことが大好きになりました。日本ではイランやイスラム教徒に対して怖い印象を持っている人もいると思います。しかしイランでの暮らしはとても平穏で、人々は神様の教えに従い、いつも誰かのために良いことをしようと考えています。これを読んだ方のイランに対するイメージが少しでも変われば嬉しいです。

半年間の春夏秋冬

サントス（ブラジル）

僕達 2021 年度の国費留学生日本語日本文化研修生（日研生）は、もともと十月に日本に来る予定であったが、コロナウイルスの影響で入国が十二月まで延期された。十二月がついに来た時、オミクロン株がサウスアフリカで発見され、後一か月間ぐらい待たなければならなくなった。2022 年が来たが、入国が認められたのは三月であった。何もできずに半分の留学期間が経ったが、日本へ行けると信じ、鞆に入れた荷物をそのまま部屋の片隅に置いて待った。そして、三月半ばに来日できた。

日本で初めての季節は冬であった。冬の最後の二週間ぐらいだった。山部赤人の冬の詩、『若の浦に 潮満ち来れば 鴻をなみ 葦辺をさして 鶴鳴き渡る』と同じように、僕も和歌の浦（若の浦）で片男波（鴻をなみ）へ行った。実際鶴の鳴き声を聞いたかどうかあまり覚えていないが、景色は一生忘れられないぐらい美しかった。ブラジルのリオデジャネイロ州出身の僕は寒さに慣れていないと言っても大げさではないため、そのときの五度の温度は厳しかったが、その一瞬に海の冷たい風が体に吹いてきても、世界を燃やしているような夕日が温かった。

でも、冬がすぐ終わった。代わりに春が来、桜が咲くのを楽しみにするようになった。在原業平の春の詩、『世の中に 絶えて桜の なかりせば 春の心は のどけからまし』、その気持ちをちゃんと経験しました。そして、桜が散る時期も来、緑花公園で見た落ちている花びらが桜の最後の情景だと思えば、複雑で矛盾した感覚を覚えた。確かに、今までの僕が経験した桜のない春のほうが感覚的にのどかと言えるが、色のないのどかさの方がいいかどうか在原業平に伺いたくなる（と）しか（言え）ない。

次は、夏であった。四十度まで（たまにそれ以上）の気温のリオデジャネイロ州の夏に慣れていて僕が和歌山市の夏は問題にならないと思った。冬もそう思った。零度以下にならないなら、何とかできると思ったが、実際の冬は零度以下にならなくても考えたより寒かった。夏も、同様に四十度以下なら大丈夫と考えたが、それも「僕が思った通り」ではなかった。大学まで山を登れば、紀貫之の夏の詩はその感覚をよく説明できる。そ

の詩『夏山の 影をしげみや 玉ほこの 道行き人も 立ちどまるらむ』を読むとき、大学までの道の途中にある並木を思い出す。もし教室に入るまでその木の陰を歩くことができれば、嬉しかった。和歌山市の夏のおかげで、ブラジルの時より肌が日焼けしてきた。

最後は秋である。冬と同じように短い間だけ秋を経験する。紅葉も見える前に帰国するので、秋分の満月と少しずつ涼しくなっている和歌山市の風が僕が持ってくる秋の思い出だ。このように書いたら、『秋来ぬと 目にはさやかに見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる』という藤原敏行の秋の詩が思い浮かんだ。同じように、僕はこの秋を目で見えなくても風が僕に「秋」を伝えてきた。

この四つの詩で少しだけ僕の留学経験の和歌集を作ろうと思った。四季は、日本文化のどこでも現されている大切な一部であり、料理から和歌集の詩まで大きい影響を及ぼしている。そのことを顧みれば楽しい本と同じように、あっという間に最後のページが来た。だが、いつか「新留学和歌集」もできるように頑張る。



和歌山での留学生活

タヌシ（スリランカ）

私はスリランカのケラニア大学で日本語を専攻として勉強している間に、和歌山大学の日本語・日本文化研修留学生として入国することができずごく嬉しいです。2021 年 10 月ごろ和歌山大学の授業を始まったが、コロナのせいで入国が停止になり、色々と大変な時間になりました。ですが、やっと 2022 年 3 月ぐらい日本に来られるようになりました。

入国がちょうど桜が咲き始まったころでしたか

ら、花見体験をしたり、色々な場所へ遊びに行ったりしてとっても楽しかったです。WIN コンコードのおかげで、人生の初めての花見体験をしたからものすごく感動しました。桜の命が短いですが、この桜を楽しめる人がわざと日本で多いと思います。そして、一番面白いことは、満開の時にどこでもピンク色になり美しく見えることです。それだけでなく、色々な日本文化を実際に体験することができました。そして、和歌山の一番有名な那智の滝、世界遺産である高野山、きれいなビーチがある白浜、歴史的な町である和歌浦、串本など様々な場所へ連れて行ってもらいました。和歌山大学と和歌山では留学生のためにお世話をしている WIN コンコードのおかげで、豊かな留学生生活を過ごせることができました。心から感謝いたします。

そして、様々な国から来ている友達と仲良くできてパーティーしたり、遊んだりしながら、この半年間を楽しく過ごせることができました。間違ってもできるだけ日本語で会話をする場合も、時々言いたいことを通じない場合もあったが、その瞬間を皆と一緒に楽しみました。それほど仲良くできて、ありがたいです。誠にありがとうございました。また、和歌山に来てから優しくしてくれた皆に感謝いたします。皆様のおかげで、和歌山で豊かな留学生生活を過ごせることができました。このような素晴らしい人とまた出会うために、ぜひ和歌山に戻りたいです。

2022 年度 活動経過

3 月 31 日 お花見 休暇村紀州加太運動広場
 4 月 7 日 根来寺 緑花センター見学
 4 月 15 日 和歌祭創始 400 年記念企画展
 「若き日の長瀬晩花」県立博物館 美術館
 4 月 30 日 世界遺産研修
 那智の滝 那智大社 本宮大社
 5 月 4 日 新入生歓迎会
 5 月 8 日 大福茶会（和歌山文化協会）
 四季の里公園 旧中筋住宅見学
 5 月 15 日 和歌祭り渡御行列参加支援
 和歌山城周辺
 5 月 28 日 WIN コンコードニュースレター第 32 号発行
 5 月 29 日 第 14 回 NPO 法人 WIN コンコード総会
 留学生のスピーチ「ブラジル」「ミャンマー」
 6 月 10 日 狂言鑑賞 茂山狂言会
 6 月 12 日 新入生歓迎会（マレーシア）

6 月 13 日 ホームパーティー 会員宅
 7 月 9 日 振袖着付け体験
 7 月 16 日 丹生都比売神社参拝 桃狩り
 7 月 24 日 浴衣着付け教室
 第 1 回お料理教室 巻寿司
 8 月 19 日 第 2 回お料理教室 天ぷら
 9 月 11 日 白浜観光
 三段壁 千畳敷 京都大学白浜水族館
 10 月 8 日 後期新入留学生歓迎会
 日研生 交換留学生
 10 月 15 日 会社見学 中野 BC
 10 月 16 日 湯浅醤油 立神社
 広川町防災センター 見学
 10 月 29 日 大学祭 「留学生の店」出店準備支援
 10 月 30 日 特別展「濱口悟良展と廣八幡宮」
 県立博物館
 11 月 3 日 白浜観光 白良浜 三段壁 千畳敷
 11 月 5 日 世界遺産研修
 那智の滝 那智大社 本宮大社
 11 月 19 日 大学祭 「留学生の店」出店支援
 11 月 20 日 大学祭 「留学生の店」出店支援
 11 月 23 日 世界遺産高野山研修
 11 月 24 日 丹生都比売神社 緑花センター
 12 月 4 日 伊勢神宮参拝
 12 月 17 日 「第 20 回学長杯留学生による日本語
 スピーチコンテスト」参加賞贈呈
 12 月 24 日 八朔狩り 忘年会
 12 月 27 日 丹生都比売神社初詣研修
 オリエンテーション
 12 月 31 日
 ～1 月 3 日 丹生都比売神社初詣研修
 1 月 2 日 丹生都比売神社 初詣
 1 月 3 日 初詣 玉津島神社 天満宮
 新年会
 2 月 24 日 モンゴル留学生卒業お祝い会
 2 月 27 日 卒業生来訪（マレーシア）
 3 月 1 日 南部梅林 白崎海岸
 3 月 11 日 大乘寺（応挙寺）香美町立ジオパーク
 と海の文化館
 3 月 27 日 白浜観光 アドベンチャーワールド

年間

- ・就職活動支援
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与
- ・日本社会や文化等の学びを支援
- ・ホストファミリーとして支援
- ・卒業生との交流





W I Nコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

W I Nは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、W I Nコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>